

平成29年度「夏の教育研究セミナー 道徳」のご案内

教科化時代に向けた道徳授業 ～主体的・対話的な学びとその評価について～

現在、東京学芸大学では次世代教育研究推進機構の取り組みの一貫として、「特別の教科」である道徳科の評価の方法を提案するプロジェクトを進めています。本校もその研究に関わり、日々実践の中で様々な視点を取り入れながら進めております。道徳科としてすでに施行させている地域もあるかと思いますが、授業の在り方、評価の在り方について悩むことも多いのではないのでしょうか。「何を・どのように評価すればよいのか」「どういった評価方法があるのか」「授業の形式は…」など、方法論に偏りがちですが、まず大事にするべきは目の前の子どもと共に創る「評価に値する授業」なのではないのでしょうか。今まで続けてきた道徳としての在り方を振り返る中で、今まで通り大切にしていけるものは何か、また新たに取入れていく視点は何か、など授業の教科化時代に向けて道徳授業の在り方を一緒に考えていく時間になればと思います。

今年は、東京学芸大学准教授の松尾直博先生を講師にお招きいたします。松尾先生には、主に公開授業の講評、午後は心理学の視点からも道徳科を見据えたお話をいただく予定です。また、みなさんとワークショップのような活動も予定しております。参加される皆さんが抱く悩み・授業に対する考え、また教科化時代に向けた新しい取り組みなど、共有できる時間になればと思っています。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

期 日 平成29年8月21日（月）9:00～16:30
会 場 東京学芸大学附属世田谷小学校2年2組教室（本館1F）
講 師 松尾 直博先生（東京学芸大学准教授）
主な内容

◇午前（9:00～12:00）

9:00～9:20 趣旨説明

9:30～10:15 公開授業

10:40～12:00 協議会・講師より

◇午後（13:00～16:00）

13:00～16:00 講師の講話、ワークショップのような活動、本日の振り返り

※受け付けは8:40～9:00になります